

一般演題

- 33 HELLP症候群 (Hemolysis, Elevated liver enzyme, Low platelets) に対する新しい血液浄化療法の試み
滋賀医科大学第一外科、同 集中治療部¹⁾
同 救急部²⁾、同 産婦人科³⁾

○谷 徹、花沢一芳、江口 豊¹⁾
遠藤善裕、長谷貴將²⁾、阿部 元
小玉正智、木村文則³⁾、山出一郎³⁾
野田洋一³⁾

【症例1】35才女性、妊娠27週において、DIC、呼吸不全、急性腎不全を呈し緊急入院。血小板数9000/ mm^3 、FDP 633.5 $\mu\text{g}/\text{dl}$ 。胎児仮死兆候を認めた為、緊急帝王切開施行。胎児は死亡娩出となった。妊娠終了後も出血傾向は改善されず、肝機能はT.Bil 15.3mg/dl、LDH 2730と高値である為血漿交換を計5回施行した。肝機能異常、DIC、呼吸不全は改善し、以後約1ヶ月 CHDF/HDを継続し、最終的には腎機能も回復し救命した。

分離血漿を用いたin vitroの検討を行った。HD、HF、血漿成分分離膜 (2A) 等のcut offの異なる膜にてplasmaを分離し、濾過した液の溶血に関する因子の有無を検討したところ2A膜にて通過可能であることが判明した。

【症例2】32才女性、妊娠33週にて帝王切開に胎児分娩 (生体) 後3日目より、血小板3.7万、FDP 62.2 $\mu\text{g}/\text{dl}$ 、LDH 3318、T.Bil 1.4ng/dlおよび血尿を認めた為、EvaFlux 2AによるHFを1回施行した。治療翌日には血小板数6.1万と上昇、LDHも1145と低下した。以後保存的に経過観察を行った。6病日には、血小板23.6万と正常値に回復し、LDHも555と著明な改善を認めた。

【考察】当疾患における溶血は微小血管性溶血性貧血の病態に類似する。治療の根本は早急な妊娠の終了と抗血栓療法である。重篤な病態においては、血漿交換が有効となる。第1症例には血漿交換にて改善を得た。第2症例に関しては、有害物質の除去を目的としてEvaFlux 2Aによる血漿成分分離を施行した。HELLP症候群のある病態下において、今回施行された血液浄化法は今後有効性が期待できると考えられた。

- 34 血漿交換療法と持続血液濾過法が有効であったS.aureusによる敗血症性ショックの一例
長野県厚生連篠ノ井総合病院内科

ナガサワ マサキ
長沢 正樹

〔はじめに〕近年、グラム陽性菌による敗血症の増加が問題となっており、その菌体成分や毒素により病態が増悪するという報告がなされている。

メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (MSSA) による敗血症性ショックによりDIC、ARDSを伴った急性腎不全を呈した症例に対して、ショック時より血漿交換を施行し、その後持続血液濾過法により救命し得た一症例を経験したので報告する。

〔症例〕症例は65歳女性。多発性骨髄腫IgG K型にてメルファラン、サイクロホスファミドブレドニンによる少量療法中、左眼瞼、右足内側に膿瘍出現。その後発熱、全身倦怠感を主訴に入院となった。入院時ショック症状を呈し汎血球減少症 (WBC 200、Hb 6.3g/dl、Plt 59000) および急性腎不全 (BUN 53mg/dl、Cr 3.5mg/dl) を認めた。右足膿瘍、静脈血よりMSSAを検出し、MSSAによる敗血症性ショックと診断した。同時に凝固時間延長、FDP増加などの凝固異常、および肺動脈楔入圧の上昇を認めない著しい低酸素血症を呈することより、DICおよびARDS合併が考えられた。

〔経過〕人工呼吸器管理下に於いて、グラム陽性菌より放出が予想された内外毒素及びTNF等のサイトカイン除去目的に2.4LのFFPを置換液とした血漿交換を2日連続にて施行し、急性腎不全に伴う無尿状態に対しては、持続血液濾過法を9日間施行した。同時に原疾患に対して、強力な抗菌剤投与および、DICに対する抗凝固剤の併用を行った。これにより呼吸等のバイタルサインの改善を認め、6回の血液透析療法を経て尿量増加し急性腎不全より回復した。

〔結語〕MSSAによる敗血症ショックに伴うMOFに対して、血漿交換および持続血液濾過法は有効である一症例を経験したので報告した。